

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	380100492
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきクリニック
所在地	愛媛県松山市市坪南1丁目5-26
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 6 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の連携を理念とし、常に利用者の健康と慢性疾患の管理を念頭に置きながら、医師、看護職、理学療法士、介護職員等が協力して、その人の残存機能を生かしながら、その人らしい健康的な生活がおくれるように援助することができる。医療機関が母体であるために、夜間や休日にも看護職員と院長の連絡が取れる体制をとっており、利用者の急な疾病や状態の変化にも対応ができる。また年2回地域フォーラムを開催し、地域に根付いた施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は診療所の2階にあり、以前に介護療養型医療施設として使用していたスペースを利用してグループホームを運営している。年2回、法人として地域住民等を対象に熱中症や転倒予防などをテーマとした「地域フォーラム」を開催しており、参加者と交流を深めている。事業所では、利用者が「立つ・座る・歩く」ことを重要と考え、誘導をしてトイレでの排泄支援を行うなど、生活リハビリに力を入れている。また、週3回、1階にある診療所でパワーリハビリを行い、利用者の身体機能の維持や向上に努めている。管理者は職員と会議を繰り返し話し合いを行う中で、話しやすく意見の言いやすい信頼関係を築いている。職員は法人全体の会議や勉強会に自主的に参加してサービスの向上に努めており、利用者の「外出する機会を増やしたい、利用者がここにおいて楽しいと思えるグループホームにしたい。」という目標を持って支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 GH つばきクリニック

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

岡山 由美子

評価完了日

H26 年 5 月 28 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスについて、事業所全体の勉強会等を通し職員が話し合い作成する。またGH内にも提示し、職員一人一人が意識しながら仕事に取り組み、支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 「慣れ親しんだ地域・環境の中でその人らしくいつまでも安心して暮らすことを目指す」という理念を開設時に職員全員で話し合い、医療と介護の連携を基本に考えて作成している。また、理念は事業所前に掲示し、勉強会を開催して理念に沿った対応を職員間で話し合うなど、常に職員一人ひとりが意識して実践に繋げるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 定期的に勉強会、家族会、地域フォーラムを実施し、またブログ、新聞の作成また行事等を通して地域との交流を図っている。地域の文化祭、運動会にも積極的に参加し、地域の中高生の職場体験、ボランティアも受け入れている。</p> <p>(外部評価) 年2回、法人として認知症や健康保持などをテーマとした「地域フォーラム」を開催しており、地域住民と交流を深めている。フォーラムは町内に開催案内を回覧してもらい外部講師の講演を行うなど、地域住民の参加が増え地域での大きな行事の一つになっている。中学校や地域の運動会の参加見学や、文化祭には利用者が作成した作品を出展するなど、地域の行事に積極的に参加するようにしている。また、高校生や短大生のボランティアを受け入れたり、音楽療法のボランティアに訪問してもらうなど、地域との交流を行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に認知症についての地域フォーラムを開催し地域の方へ発信している。また運営推進会議等を通して認知症に関する勉強をし理解を促している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 概ね2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、市担当者、包括支援センター職員、利用者、家族、地域の方戸等に参加していただいている。その際、意見や要望、質問を受け、サービスの向上につなげている。また会議録を作成し次回に生かせるものになっているようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者、民生委員、ボランティア、他のグループホームの職員、市担当者や地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では、脱水や熱中症、避難訓練、食事など、利用者や参加者に関心の高いテーマを取り上げ、意見交換をしている。面会時に家族から聞き取ったりアンケートをした意見を集約して会議のテーマなどにする工夫をしているが、家族への参加には繋がっていない。また、地域住民等の参加も少なく、積極的な意見交換までには至っていない。</p>	<p>運営推進会議の内容を明確にし、関心を持って参加してもらえるような案内作成を工夫するなど、地域住民や利用者の家族等、多方面からの参加が得られ積極的な会議となるような、さらなる取組みを期待したい。また、事業所の利用状況や行事報告、意見交換の内容を詳細に記録し、誰が見ても会議内容が明確になるよう記録の整備を望みたい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域フォーラムや運営推進会議では参加をお願いし、意見交換を行っている。また必要に応じ訪庁、電話連絡等を行い協力関係を構築している。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に参加しており、事業所の現状等を報告し情報交換を行っている。生活福祉課職員に相談することも多く、アドバイスをもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に勉強会を開催し、身体拘束についての理解を深め、周知徹底している。実際行っていない。</p> <p>(外部評価) 法人全体で身体拘束しないケアを徹底して実践している。2階に事業所はあり、利用者はエレベーターを利用するため見守りをしやすい環境になっている。日々のケアの中で気になることは勉強会をして職員間で話し合うなど、身体拘束を正しく理解して職員全員が意識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会を開催し、周知徹底している。また自治体、地域密着型サービス協会等の各研修会にも参加し、理解を深め、職員全体で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的な勉強会の開催、各研修会等に参加し、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を用い十分に説明し納得、同意をいただいている。また常日頃から質問等にはお答えできる様になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日頃の会話や支援を通して把握するように努めている。運営推進会議等で家族の意見、要望を聴いたり、アンケートを実施したり、よりよいGHになるよう改善している。	
			(外部評価) 利用者の日々の会話や、利用者との1対1となる入浴時などに聞いた言葉を聞き逃さないよう記録して職員間で共有している。家族には面会時に職員から必ず話しかけ、話しやすい雰囲気づくりをして意見や要望を聞くよう努めている。また、年1回家族にアンケートを実施し、意見を聞くようにしている。出されて意見は介護計画に反映するなど、対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 勉強会、ミーティングの際に意見交換を行い、改善に努めている。また月1回経営者、管理者、リーダー等の代表者が集まり経営会議を行い、意見交換の場を持っている。</p> <p>(外部評価) 週1回、事業所内で検討会を開催し、職員は気づきや意見を自由に出し合い、サービスの向上に繋げている。管理者は職員と会議を繰り返し話し合うことにより、話しやすく意見の言いやすい信頼関係づくりをしている。月1回、法人全体で勉強会を開催しており、各事業所がテーマを上げて持ち回りで担当し、職員は自主的に参加している。新入職員には3か月間の研修を行うほか、外部研修の情報は職員に回覧して自主的に参加できるようにしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の努力、勤務状況を把握し、即対応している。また資格習得への支援も行い、スキルアップできる様努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の勉強会、研修会等へ積極的に参加を促し、サービスの質向上に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の参加や法人外の研修会、勉強会に積極的に参加し、情報交換を行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に必ず事前訪問を行い本人の思いを確認している。また随時ホームへの見学も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族にもニーズや不安などを確認している。また家族と事業所との協力体制についても説明し理解を得ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) なるべく早い段階で暫定ケアプランを作成し、サービス開始時には安心できる場となるよう配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に行いなじみの関係ができる様取り組んでいる。信頼関係が築けるよう、コミュニケーションを大事にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時に定期的（月1回）に近況報告し、利用者がよりよく生活できる様意見交換している。また場合によっては電話や郵便物での連絡も行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい雰囲気作り、環境作りをしている。行事等で外出した際、自宅に寄る等の支援をしている。	
			(外部評価) 顔なじみの地域住民が季節のくだものなどを持って来られたり、利用者の同級生の訪問がある。訪問者には職員が声をかけるなど、訪問しやすい雰囲気づくりをしている。また、デイサービスや診療所の利用者が声をかけてくれたりするなど、利用者同士の新しい馴染みの関係もできてきている。また、外出時には自宅周辺へも出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士でトランプをしたり、一つの机を囲んで塗り絵等の作業、調理、家事参加等お互い支えあいながら行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても本人、家族が安心して過ごせる様に他のサービスの紹介など相談、支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 食べたい物の希望を聴いたり、日々の何気ない会話、表情、しぐさ等の中から本人の思いを汲み取るように職員一人一人が意識している。またそれを記録に残し、申し送りやカンファレンス等を通して情報を共有し、検討を行っている。 (外部評価) 日々の会話や声かけに工夫して、利用者の思いや希望を聞き把握するよう努めている。思いの把握が困難な利用者には、家族から面会時に情報を聞き取りをしたり、表情等から把握するよう努めている。新たに得た情報は24時間シートに記入して職員間で共有し、検討して利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 信頼関係を構築する中でアセスメント、記録を行い、情報把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメント等で、個々の身体状況、生活暦等を把握し、その人らしい生活ができる様に支援している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) その人らしい生活ができる様、サービス担当者会議を開き、基本的には3ヶ月に1回、また状態の変化に応じて都度職員全員で検討し、ケアプランを作成し実施している。また1ヶ月ごとにモニタリングを行い見直しを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向と病歴や身体状況の確認を行い、介護計画に反映している。サービス担当者会議は3か月に1回実施し、家族が参加できない場合は事前に電話で意見を聞き、会議に反映している。また、利用者の体調の変化に応じて見直しをしている。24時間シートを使用して、日常の具体的な利用者の様子や場面、希望のほかに、サービス実施状況を詳細に記録しており、モニタリングや介護計画の見直しを行いやすい工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や生活の中で気づいたことを記録しケアに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内にデイケア、小規模多機能施設、高齢者住宅があり、本人の状況、ニーズに合わせて様々なサービスが提供できる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れ、防災訓練等に地域住民、民生委員の方にも参加していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の意向を尊重し受診できる様支援している。緊急時 も適切な対応が取れる体制を整えている。	
			(外部評価) 入居時に事業所の1階にある母体診療所と医療連携が取れ ていることを利用者や家族に説明し、理解を得て母体診療 所をかかりつけ医としている。受診状況は必ず家族に報告 し情報を共有している。かかりつけ医は利用者の状態を常 に把握し、夜間などの緊急時にも迅速に連絡が取れ対応で き、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤で看護師がいるため情報交換しながら連携して支援で きている。また、訪問看護師ともスムーズな連携が取れて いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と連携を密にとり安心して過ごせるよう配慮して いる。また入院時には適宜面会し、現状を把握すると共 に、看護師等の病院関係者とも情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針、マニュアルを作成し、入所時に説明し家族 の意向を確認している。 看護師や訪問看護と24時間連絡を取れる体制をとってい る。	
			(外部評価) 「グループホームにおける看取りについて」を作成し、入 所時に事業所としてできる内容を利用者や家族に説明し、 同意を得ている。これまでに看取りの事例はないが、利用 者や家族の要望に沿って、安心して最期を迎えられるよ う、医師や訪問看護等と24時間体制での医療連携を整備し ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に法人内外の研修会や勉強会に参加し、またその都度病気についての症状について調べ、学び、スキルアップにつなげている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、年2回の定期的な避難訓練、年1回の風水害対策訓練を実施している。運営推進会議時の議題として取り上げることもあり、その際消防署員、地域住民や家族にも参加していただき、訓練を実施している。非常食、水も備蓄している。 (外部評価) 台所を火元とした消化訓練と夜間を想定した避難訓練を年2回実施し、内1回は消防署に協力してもらいアドバイスをもらっている。事業所は、まつやま防災マップで水害想定区域に指定されており、避難経路や避難場所を確認している。運営推進会議に合わせて避難訓練等を実施しており、会議の参加者などの地域の参加協力者と一緒に訓練を実施している。また、事業所では粥や水などの備蓄品を用意したり、緊急連絡網を実際に活用した訓練を行ったりするなど、万が一の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳を傷つけないケアや声かけに配慮している。記録物の保管、大勢の目に触れる廊下等に個人を特定できる物を置かない等、プライバシーの保護にも意識的に努めている。ブログや新聞に写真を使用する際は同意書をとるようにしている。 (外部評価) 特に排泄時や入浴時は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した声かけや対応をするよう努めている。毎年、新聞に掲載する写真などの個人情報、利用者や家族に同意を得て使用している。また、利用者の日常の生活状況や病状は必ず家族等に報告し、必要に応じて確認して対応するなど、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常にコミュニケーションを重要と考え、言動だけでなく表情やしぐさ等に目を配り、本人の思いを感じ取り、意向に沿う支援を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズム、個別性を尊重し、体調や状況に応じた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な美容師が訪問し、日々の身だしなみや服装ができるだけ本人の意向となるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も同じものを同じ食堂で食べながら、できるだけ自分で食事が食べられるように見守り、必要時には適宜介助している。またできる範囲で調理等にも参加していただいている。また定期的にアンケートをとり、リクエストを聞き、献立に反映させている。	
			(外部評価) 日常会話の中で利用者の好みを聞き取り、担当職員が献立を立て調理している。職員は利用者と一緒に同じ食事を食べ、味付けなどを職員間で話し合いをしている。利用者に合わせて、刻み食や一口大などの食事形態にも対応している。日曜日には、日常会話やテレビで見た好みのメニューを取り入れたイベント食を行うなど、利用者が楽しく食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量には気をつけながら支援している。排尿量、水分摂取量の記録をつけ、場合によっては体重測定や状態を観察しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを徹底し、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握、記録し、トイレでの排泄が可能な利用者は適時及び適宜トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導してトイレでの排泄支援をしている。トイレ誘導を行うことにより、紙オムツからリハビリパンツへの使用に変更した事例もある。また、便秘の利用者には必要に応じて下剤を使用することもあるが、水分やヨーグルト、牛乳などを摂取してもらうことにより、自然な排便ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分、運動量等に気をつけながら便秘を予防している。必要に応じて乳製品を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 3回/週、曜日の基本とし、利用者の体調、希望、皮膚の状況、入浴の間隔等考慮し、臨機応変に対応している。必要に応じて、清拭や陰部洗浄を行っている。	
			(外部評価) 利用者は週3回以上入浴することができる。希望に応じて、毎日入浴することもでき、入浴剤の色や匂いを変え温泉気分を味わっている。入浴の苦手な利用者には、職員を交代した声かけやタイミング等を工夫して、入浴できるよう支援している。浴室には、座ってシャワーを浴びることができる「座シャワー」やリフトが設置されており、利用者の身体状況に合わせて安心安全に入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動、本人の意向等、個々の状態に応じて、安眠できる様支援してる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指導により薬の作用、副作用、用法等を理解できている。また日々の観察を行い、報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理、洗濯物の片付け等への参加、季節ごとの行事を提供したり、日々の生活が充実するものとなるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を取り入れながら、状態、気候等に応じて散歩や日光浴、買い物等外出する機会を持っている。外出時は人(学生)が多い場所、草花が多く咲いている所等、気分転換や刺激が得られる様に工夫している。また家族への行事参加をお願いしている。 (外部評価) 診療所の2階にある事業所からエレベーターを使用し、気軽に外出することができる。散歩時には地域住民とあいさつを交わしたり、法人内のサービス付き高齢者住宅に立ち寄りお茶を飲んだりして、利用者は他の事業所の利用者などと交流を楽しんでいる。また、季節に応じて、花見やそうめん流し、椿まつりなど、日頃行けない場所にも出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同意の下、家族から預かりGHで管理している。また毎回出納帳に記録をつけ、定期的に家族に開示している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 認知症自立度判定も高くあまり行えていないが、年賀状の返信は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節に応じた壁絵の飾りつけを行ったり、常に環境を整え、利用者にとって居心地がよい場所になるよう心がけている。また整理整頓を心がけ、居心地よく生活してもらるようにしている。</p> <p>(外部評価) リビングは広く、観葉植物や大きなソファを置き、利用者が自由にゆっくり落ち着いて過ごせるような雰囲気づくりをしている。利用者と一緒に作成した紫陽花の貼るなど、季節に応じて飾りつけを変更し、季節を感じられるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングではそれぞれ定位置があり、状況に応じて対応している。常に声かけや気を配り、居室に誘導する等、臨機応変に対応している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族にも協力してもらい、本人にとってなじみのあるものを使い慣れたものを持ってきてもらうことで、これまでの生活が継続できるように支援している。また毎日の掃除、環境整備により、気持ちよく、安全に生活できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやタンス、クローゼット、エアコンを備え付けている。居室には、利用者の使い慣れた枕や布団、手鏡などを持ち込むことができ、利用者一人ひとりが安心して落ち着いて過ごすことができるような空間づくりをしている。朝と夕方には、職員が掃除を行い清潔保持をしている。また、一緒に掃除を手伝う利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自分でできることはしてもらい、利用者が普通の生活を送ることが出来る様に支援している。またそのための個別の支援、環境等を工夫している。</p>	